



<第109回 ほほえみの会 総会>

1995年以來10年目に入りました。総会には52人が参加しました。

2003年度の活動報告では北5病棟に保育士さん配置の運動、実現などが報告されました。今年度、こども病院から県への要求で実現されたのは「ほほえみの会」で強く要望をした保育士さんだけだったそうです。

会計報告では昨年度の報告と、今期ホームページの更新などが了承されました。

役員改選では昨年度役員に継続してお願いする事になりました。新役員 代表 池田恵一 副代表 小嶋隆

世話人 堀内雅士 鈴木啓之 杉山禎
会計 渡辺真澄

▽ 「臨床試験ってなに？」 高島能文 医師

医学に進歩の為には最後には人を対象とした試験に一部を頼らなくては出来ない研究が必要である。勘に頼った治療ではいけない。根拠を求める治療を各病院で連携して行っている。日本には白血病だけでも5つの病院グループで研究されているが合併する動きもある。臨床試験でエビデンス(証拠)作り次世代の治療に生かす。理解と協力をほしい。

▽ 「最近話題のがん治療」 西尾信彦 医師

最新のがん治療3種類を紹介

- ・ 分子、細胞標的療法
抗がん剤が正常細胞を除いてがん細胞のみ攻撃するもので、副作用を少なくして効果ある治療を目指す。
- ・ 腫瘍ワクチン
- ・ ミニ移植

骨髄を破壊しないで移植を行い患者とドナーの骨髄を混在させる。移植には骨髄破壊の前処置が必要だが、前処置をしてもがん細胞は残る。残った細胞は新しい骨髄によって攻撃を受けて死滅する。前処置を軽くしてもこの攻撃力を高めれば効果は高いと見られる。

▽ 特別講演「入院している子供と遊び」

静岡県立がんセンター チャイルドライフスペシャリスト

青木 睦恵さん

講演を前にがんセンターの天野医師から「病院と遊び」について、最近では医療の発達があり、辛い治療で長期間の入院を余儀なくされる。入院中にいかに有意義に過ごすかが大事で、遊びは非常に大切である。との話がありました。

チャイルド ライフ スペシャリスト (CLS) とはアメリカの資格で日本にはない。日本で活躍するCLSは3人で宮城こども病院と浜松医大に。遊びのチカラは一般的に知的発達、身体発達、情緒発達、集団性・社会性の発達、自己表現、教育などの解釈がある。加えて、入院中の子供にとっての遊びはストレスの軽減や気を紛らわす、主役になる、その子らしく成長する効果がある。

例えば、検査や処置の時に痛さを紛らすためにゲームボーイをさせたまま処置をする。採血時にシャボン遊びをする。シャボンで息を吹く事で血管を広げる効果もある。

入院生活は受け身の事が多いが主役は子供だという事を認識する必要がある。遊びは常に子供が主役である。お医者さんごっこで自分が積極的参加者になる事もアメリカの病院では行っている。ぬいぐるみの患者さんを子供自身が主役になって「治してあげる」。医療器具のおもちゃを見て触って匂いをかぐ。遊びを通して必要な情報が子供に分かりやすく伝わる。

病気になったのは誰のせいでもない。病気は自然な事でありやっつけていく事が大事。親は落ち着いて自信を持って子供に接してほしい。そうしないと親の不安が子供に伝わってしまう。子供と親の気持ちをそういう方向に持っていく事がCLSの仕事である。

▽ 総会後の懇親会でも活発な意見が出ました。がんセンターとこども病院で子供達の生活環境に差がある。病棟規則なども見直してほしいという意見もありました。

次回 総会は 8月 8日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>